

# 同盟旬報

第一卷第一號

(通卷第一號)

昭和二十七年七月十五日發行

## 主要目次

近衛內閣成立……………二	首相政見發表……………三	各閣僚談話……………三	特別議會法案決定……………五	保健社會省創設決定……………五	財政三原則確立……………六	吉野尙相放送要旨……………七	關係閣僚談話……………七	備砲口徑商議拒絕……………一〇	川越大使歸任……………一三	陸軍豫算編成方針……………一三	海軍豫算編成方針……………一七	商工追加豫算……………一七	日滿航空聯絡開始……………一八	政黨動向 <small>民政有志會合 政友革新派會合</small> ……………二二	日銀參與理事決定……………二六	麥收穫豫想高……………二八	中旬對外貿易……………三〇	帝國藝術院創設……………三三	兩角判事證人問題……………三三
オリンピック <small>主競技場決定 冬期大會決定</small> ……………三六	リ聯ホヤール水道閉鎖……………三〇	乾岔子不法占據……………三〇	蔣介石氏 <small>農村建設論 許大使に重要訓令</small> ……………三一	國民大會に冀察代表派遣……………三一	廣東幣制改革成る……………三三	英帝國會議の成果……………三三	太平洋不可侵案提言……………三八	ウイザー公結婚……………三八	フラーン危機……………三九	シヨータン組閣……………三九	獨艦アルメリア砲撃……………四〇	獨伊國際監視隊脫退……………四〇	トハチエフスキー事件……………四一	ソ聯肅清工作と各方面觀測……………四一	米海軍十六吋砲採用……………四二	ヴァンゼーランド經濟和平行脚……………四二	孔財政部長勳爵……………四二	日本經濟使節……………四二	スターリン(北極圈)空路開拓……………四九

定價冊五錢

同盟通信社發行

## 法人同盟通信社とは

社団法人同盟通信社は東京大阪を初め日本全國各地に亘る約二百の有力新聞社、並に日本、朝鮮の兩放送協會が共同で組織してゐる通信社で(裏表紙内側参照)ある。新聞通信社としての「同盟」の任務は加盟社員たる新聞社や放送協會の爲めニュースを蒐集し通報することにある。内外の政界財界の動き、日々の事件、スポーツニュースは固より、時々變動する相場の歩みまでが「同盟」の手に蒐集編輯され「同盟」のニュースとなつて、中央から地方へ、又地方から中央へと晝夜の別なく刻々に流れてゐる。朝夕の新聞紙やラヂオニュースは此の「同盟」のニュースを土臺とし骨組としてゐる。

國際的に見た「同盟」の任務は世界五十餘ヶ國の出來事を九千萬の國民に傳へ、同時に日本を世界に向つて報道し闡明するに在る。之が爲め「同盟」は或は海外の要地に支社、支局を置き、特派員を派し、又世界通信聯盟二十數社と結んで全世界に通信網を布いてゐる。而して世界は「同盟」の海外向けニュースによつて初めてその日々の日本を認識する。「同盟」は日本の眼であり、耳であり、その口なのである。

## 「同盟旬報」發刊の辭

報道に關する限り拙速主義は許されぬ。速さは飽く迄も速く、而も正確であることを必要とする。

新聞紙は報道機關として最も大きな地位を占めてゐる。併し新聞に現れた社會相は二十四時間を二つに切斷してその切斷面から透視したものである。従つて事柄自體の重要性よりもその瞬間からの遠近の方が問題にされ易い。新聞は又その性質上ニュース價値に左右される。事件の發端よりも結末の方が軽く取扱はれ、時に重大な事柄が無視されるのはその爲めである。「同盟旬報」はかかる日刊紙の持つ弱點の幾分かを補ひ、今日の日本及世界を出來得る限り克明に且つ公正に記録して行かうといふ意圖の下に發刊されたものである。

たゞその收容能力にはおのづから限度があり、收める所必ずしも社會萬般の事象に亙り得ないことは謂ふ迄もない。しかし凡そ天下の事象に關心を寄せる知識人として、或は又公的責任を負ふ社會人として、當然検討し記録し置くべき、又それに値する事柄は總て網羅されてゐると考へる。

自ら論を立て輿論に訴へることは新聞紙の任務であつて、通信社の仕事ではない。「同盟」の爲し得、爲す可きことは事實を出來得る限り客觀的に公正に報道し考察の材料を提供することである。「旬報」の編纂はこの原則の上に「同盟」の名を以て蒐集され發行された「ニュース」を綜合して編纂したものである。更に又、外國通信に於いて「同盟」の占める獨特の地位に鑑み、海外「ニュース」に關しては出來得る限り多角的且つ網羅的なるを期した。

一つの事件が「ニュース」として如何に報道され又反響を生んで行くかといふ如き謂はゞ「ニュース」の國內的又は國際的重要性に關心を有する讀者に對しても、旬報の外電各欄は多くの示唆を與へ、貴重なる資料を提供することゝ考へる。「旬報」はその資料としての意義を充分發揮せしめる目的を以て、三ヶ月毎に總索引を複製する。

支那

國民政府

蔣介石氏施政意見發表

上海(六三) 蔣介石氏は四日午後廬山に於て大公報記者を引見して時局談を試み、

國內の軍事は既に回復し予も亦健康を全く恢復した、我が中國は今や正に民の利益に念ひを致し建設に邁進すべき秋である、國家の生存は唯自強に頼る

ベルギー大使決定

南京(六三) 九日の中央政治委員會議はベルギーとの間に大使を交換することに決

糖業管理委員會新設

上海(六三) 國民政府は國內糖業の發達を促進する趣旨から全國糖業管理委員會を設立するに決し、

ある、右は支那に於ける砂糖の需給調整價格統制を行ひ國內糖業に對する統制權を握らんとするもので委員會議左の如くである

一全國糖業の生産、分配を計畫統一して市場の統制を圖ると共にその發展を促進するを任務とす

一各糖業者は毎年その業務計畫を本委員會に報告するを要し本委員會に於て必要と認めたる時はこれが變更を命ず

一製品の販路及び價格は毎月本委員會に報告するを要し必要と認めたる時は業界の實情に照らし本委員會に於て價格標準を規定しこれに準據せしむ

政局の中心廬山に移る

上海(六三) 國民政府は盛夏中全部遷都地廬山に移轉するに決定蔣介石氏自身は既に廬山に靜養中であるが十二日陳天仇

蔣氏農村建設を説く

上海(六三) 蔣介石氏は十五日全國の學生に對し「暑中休暇期間に於ける救國に對する最切なる工作如何」と題する次の如き談話を發表し救國の要諦は農村建設

が最要事項を併發するに至つた

教育會議代表決定

南京(六三) 本年夏東京で開かれる世界教育會議に出發する支那代表は各教育團體學術團體に於いて入選中のところ胡適博士以下各方面代表者十七名に決定した

廬山に對北支會議開催

上海(六三) 支那側確報に據れば蔣介石氏の招電に依り廬山に赴いた馮玉祥氏、宋哲元氏代表戈定遠氏、韓復榘代表張紹堂氏及び駐日大使許世英氏は廿一日廬山

ステファニ顧問蔣氏に報告

上海(六三) 廬山來電に據れば國民政府最高顧問ステファニ氏は廿三日午後四時半蔣介石氏を同伴し廬山の別邸に蔣介石氏を訪問し北平、天津、太原等北支各地

廬山に重要會議召集

上海(六三) 蔣介石氏は七月廿七日廬山に各省政府主席を召集し國民政府として最初の地方最高長官會議を開催することに決定廿五日附で夫々召集狀を發した又七月廿日附には全國陸軍長官會議を同じく

國策討論會開催

上海(六三) 蔣介石氏は来る七月十五日より廿三日までの九日間廬山の特種圖書館に於て蔣介石、汪精衛氏共同主席の下に討論會の形式で國策討論會を開催するに決定廿四日蔣汪兩氏の名を以て全國各方面に招電を發し又中央政治委員會議秘書

汪精衛氏重獲

南京(六三) 中央政治委員會議主席汪精衛氏は十七日午前中央政治委員會議席上退席し胸部に苦痛を覺へ會議中絶して退席、歸宅就床してゐたが、午後一時頃狭心症の發作を起し直ちに醫師を招き手當中であるが相當重篤である

▲南京(六三) 汪精衛氏の病狀はその後一進一退の時々脈搏の結滯を生じてゐる

▲南京(六三) 汪精衛氏の病狀はその後一進一退の時々脈搏の結滯を生じてゐる

石氏は過般の西安事變に鑑み舊軍閥地方割據の弊を除去する爲め封建制度の徹底的打破の必要を力説する演説を試み全國陸軍整理統率の新方針を明示する豫定と云はれる

總算案立法院通過

南京(六) 民國廿六年度國民政府總算案十億六千四百九十八元は先に中央政治委員會議を通過、立法院に於て審議中であつたが、廿五日の秘密會議に於て一部字句修正の上通過、愈々近く公布される事となつた、又中央儲備銀行法案も同じく立法院に於て一部字句修正を爲した外左の附議決議を附し通過した

一中央儲備銀行設立の爲めの準備委員會を設けること  
一中央儲備銀行設立の上は五、六年間に全國紙幣の完全なる發行統一を期すること

一中央儲備銀行總裁には政治的色彩なき人物を選ぶこと

日支關係

北支總領事會議終了

青島(六) 北支總領事事務打合せ會議は六月一、二兩日に亘つて行はれた、その結果北支領事對する各總領事の意見多量に北支外交の現地具體案を作成、四月上海經由歸朝する別府外務事務官がこれを進行本省に具申することとなつた會議終了後加内天津、有野濟南、加藤漢口、大隈青島の各總領事及び別府事務官等は二日午後一時自動車を利用して豫覽團の配備された海西、濰天嶺、南泉方面の實地視察をなして夕刻歸還した

王寵惠氏日本記者と一問一答

南京(六) 外交部長王寵惠氏は十八日外交部に於て日本記者團と會見日支外交問題に關し記者團との間に次の如き一問一答を行つた

問 川越大使(近々)歸任するが日支外交調整交渉を再開する用意ありや

答 支那の對外交方針は三中全會の宣言及び自分の就任した際明示した通り何時でも日本側と意見を交換する用意がある、川越大使歸任の上はその意見を聴取する事を切望してゐる

問 支那側の對日態度は硬化し、反動的攻撃的態度を採つてゐると傳へられるが眞相如何

答 支那の外交方針は一貫して居りその目的は自存と共存を求めらるにあつて、決して硬化もなければ硬化もない

問 政治關係の調整が出来なければ經濟合作は顧くまでこれを拒否する方針なりや

答 わが國は日支關係調整に對し何等先決條件を示して居らぬが事實上日支間の諸問題は悉く政治問題に關連して居る、従つて若し政治問題を懸案の儘としてその問題を交渉しても恐らく良好な結果は得られないであらう

問 北支の政治經濟問題に對する國民政府の方針如何

答 冀東地區の存在及密輸問題等が解決せぬ限り北支の政治經濟の完全はなす斯る事情の下では如何なる政治經濟建設も何等の効果も收められない、最近支那側では抗日精神の昂揚に努めてゐるが之は孔祥熙氏の所謂「國民感情の融和」の提唱に悖るものと考へるが如何

答 國民の感情を融和することは確かに重要である、併し之は兩國が同時に努力すべきで決して一方のみを責むべきではない、最近支那は抗日精神を提唱して居らぬ、然し侵略に對しては必ず之に打撃して成功するであらう

問 英支交渉は進展してゐるか

答 英支交渉の目下の關係は從來と同様外交の當道に從つて普通の事項を處理してゐる

問 日英交渉に對する支那側の態度如何

答 日英交渉が支那に關係する場合は先づ支那の領土主權及び行政の完全を尊重して支那の意見を徹し且つ支那の同意を得べきである

問 不平等條約撤廢に關する方針如何

答 領事裁判權の撤廢は國民黨の傳統政策であつて政府は今何時でも之を進め得る機目下準備研究中である

問 蘇支通商條約交渉は進展してゐるか

答 蘇支通商條約はその他の外國と同様何時でも協議に應じ得る様になつて居る

問 北支の中央化が着々進められて居ると傳へられて居るが日本の立場を充分考慮されてゐるか

答 北支五省はその他の各省と同様支那の領土である、従つて國家の法律命令も同様に執行すべきである、列國の支那に於ける合法的權益は充出尊重する

問 蔣介石氏の健康如何

答 蔣氏の健康は既に恢復して居る

問 許世英氏は幾分今月末に歸任する事が出来るや、許世英氏の歸任前に政府は國交調整の爲め指示する感ある筈だ

答 廬山に大使館分館新設(上海六) 國民政府は夏季に行政院を廬山に移すに決定し政治の中心は南京より廬山に移る事となつたので我が大使館當局でも當時これ等官廳部と接觸を保つ爲め廬山に大使館別館を設ける事となつた

上海(六) 當地英字紙「ノース・チャイナ・デイリー・ニュース」は廿四日の社説に於て支那の過度に對つてある總觀態度と無難な自力過信が日支交渉に於て支那に於て極めて危険なる旨を警告し左の如く論じてゐる

最近支那に於ける建設事業が進み各方面に於て諸種の改善が行はれてゐる事は何人も否定しない所であるが、之れを以て一概に支那が今や全く萬事缺く所の無い樂園となつた様に言ふ支那側の大體的な宣傳には最も好意的な支那の友人たる吾人も屢々面喰らはせられる、此の支那側の大言壯語は國民性のしからしめる所であると共に一方又從來支那問題に對する列國の評論中親支論を反駁する爲凡ゆる支那の弱點或は缺點を無差別に拉し來つて書き立てる一つの型に對して憤激、反駁せる結果であつて依つて來たる理由無しとならないが併し決して外國から圍讀される事無き機指導すべき支那政治家の責任を解除せしめ得るものではない、従つて外交部長王寵惠氏が互恵平等の根本原則を條件とする以上日本と友好關係を保持する事が支那にとつて有利なりと卒直に認めて居る事は誠に賞讃すべき態度である、王部長は日本の國內的困難を過大視して從來の對日外交に示してゐた慎重さを忘却し去らんとする如き説を一部中國人が唱へてゐるのに反對し飽くまで冷静な觀察者としての立場を持し支那が協力的に出れば必ず日本の協調論者をして日本側一部の對支強硬論者か再び對支強硬論より對

支強硬政策に轉換せしめんとするものゝを阻止する機會を與ふるものと認めてゐる様だ

蔣氏許大使に重要訓令(上海六) 支那側報道に據れば去る十九日廬山に赴いた駐日大使許世英氏は廿三日午前九時蔣介石氏を訪問約三時間、耳り日支外交に關し重要會議を遂行東京に歸任するに先立ち蔣介石氏より左の如き直接訓令を受けたと傳へらる

一冀東及び察北の特殊情勢の解消を以て北支に於ける日支經濟提携の先決條件とする事  
二廣田外相の三原則の全面的撤回、北支を植民地化せんとする政策排撃その他支那の國土主權及行政の完全を尊重する一切の政策の撤回を日本に要求す  
三北支に於ける日本駐屯軍の撤退  
四北支の日本側自由飛行の停止

許大使廬山を下る(南京六) 對日外交方針に關し重要打合せを遂げた駐日大使許世英氏は廿四日廬山を下り九江から汽船で長江を下航廿五日正午南京に到着、直ちに外交部に赴き部長王寵惠氏と重要會議を遂げた

日支問題

邦人工場襲撃さる

上海(六) 四日午後五時五十分共同租界の邦人工場中鋼業廠に強襲、暴徒群中の支那人職工等約三百名が手に手に兇器を持つて大舉押寄せ同工場及び社宅の窓ガラスを破壊暴行を演じた、急報により我が陸隊隊より部隊出動、漸く暴徒を鎮壓した、邦人側に死傷者はなかつたが同工場の遺棄約二千弗と謂はれる、原

因は邦人従員との感情問題と見らるる  
邦畫相ついで御覽

▲上海(六二) 目下當地邦人劇場東和興  
場で「新しき土」を上映してゐるが四日抗  
日救國會は共同租界工部局に對し  
同映畫は滿洲國の宣傳映畫であるから  
同映畫は共同租界工部局に對し  
同映畫は共同租界工部局に對し  
同映畫は共同租界工部局に對し

▲上海(六三) 日本國畫映畫會社の國策  
映畫「國防全線八千軒」の上映に關し上海  
共同租界工部局は右は滿洲國宣傳映畫で  
土地租安寧を害する惧れありとの見地か  
らその上映を禁止した  
汕頭事件善後處置

廣東(六二) 去る廿二日の我が青山巡査  
に對する汕頭公安局の不法暴行事件の現  
地調査に赴いた吉竹廣東總領事は四日汕  
頭廣東總領事館由五日午後四時着列車で歸任  
した、支那側調査員凌士芬氏も吉竹副領  
事と同道廣東に歸還した

▲廣東(六二) 中村廣東總領事は十六日  
廣東省政府主席吳鐵城氏を訪問し汕頭事  
件に關して長時間に亘り重要會議を行つ  
た同會議に於いて中村總領事は  
目下現地で進行してゐる日支交渉は連  
々として進展せず此の儘放置すれば不  
測の事態を起す見ゆるも知れず、支那  
側の態度により問題の急進なる解決が  
望ましい

と述べ日本側の提案内容等につき詳細言  
及し現地調査報告を基礎に政治的解決を  
行はんことを主張した、之に對し吳主席  
は同感の意を示し解決辦法發見に努力す  
ると稱答し會見を終つた、支那側はこの

會見に於いて相當歩み寄りを見せ、問題  
は解決の緒に於いた模様である

▲廣東(六三) 汕頭事件に就き現地支那  
側當局と交渉を續けてゐた山崎汕頭領事  
は廿日夕飛行機で廣東に到着したが汕頭  
に於ける日支交渉も漸く開港港の見込  
みにつくるに至り山崎領事は右支那領事館を中  
村廣東總領事に報告の上解決條件其他最  
後の解決につき打合せを爲しこれに基き  
中村廣東總領事は一兩日中に廣東省政府  
主席吳鐵城氏を訪問し(一)損害賠償(二)  
將來の保障等に關し要請を交渉する等々  
事件發生以來一ヶ月に亘る汕頭事件交渉  
は此處に解決を見る事となつた山崎領  
事は廿一日中に中村總領事に先立ち吳鐵  
城主席及び兩廣外交特派員刁作謙氏を訪  
問する筈である

▲上海(六二) 上海租界警務問題に關し吉  
岡總領事は同日日本側提案を提出、上  
海市政府は同案に検討を加へ更に國民政  
府に移譲し請願中であつたが指令が到着  
したので上海代理市長俞鴻鈞氏は十五日  
市政府に工部局事務總長フエッセンデ  
ン氏の來訪を求め同問題につき長時間に亘  
り協議を行つたが國民政府の訓令に基き  
き日本側提案はこれを承諾し得ずと拒否  
するに決した、即ち日本側は越界鐵路問  
題の政治的解決の立場より單に越界鐵路  
の課税問題のみならず警務署設置、地域  
の調整等をも包括して上海市警務の權を  
除かん事を主張したのであるが支那側は  
交際内容は可及的小範圍に行ひたく日本  
側提案は多岐に亘り支那の主權に影響す  
るところあり、接受し得ず、但し日本側  
に於て態度を改むるならば引き續き折衝  
を繼續すべしと強硬態度を示して來た、  
斯の如く市政府側は中央の指令に基き選

延筆を執る肚が極めて明瞭なので問題解  
決は頗る困難視するに至つた

▲大連(六三) 大連明治町小林商行所有  
船東平號五七六噸は人網、砂糖、雜貨  
類を積載して十九日大連を出港し秦皇島  
に向ひ航行中廿日午前二時頃旅順沖合五  
里の公海上に差しかるや船内に潛伏し  
てゐた支那機關と關係ありと見られる支  
那人三名のため突如船長岩城徳太郎氏及  
び日本人高級船員三名は船内に監禁され  
復讐請共芝罘稅關に拿捕拘留された  
▲芝罘事案涉捕留留保

同文書院學生監禁さる  
廣東(六四) 廣東省西江方面より廣西省  
に向つた東亞同文書院旅行團羽梅勇氏  
他三名の學生は廿二日午前八時廣西省梧  
州に到着するや突如同地支那官憲の爲め  
保護に名をかり公安局内に監禁され、官  
憲は「廣西は日本人の生命財產を保護出  
來ぬ」と即時退去を強要し一行は同日午  
後四時の便船で公安局員二名の監視の下  
に廣東に送還され廿三日夜廣東公安局を  
經て我が廣東總領事館に引渡された、依  
つて中村總領事は直ちに外交特派員刁作  
謙氏に對し、支那側の不當な措置を糾弾  
した所、外交特派員も廣西當局の不法を  
認め今後斯る事無き様充分注意する旨言  
明した、併し廣西官憲は先きに梧州の邦  
人商店暴行を理由なくして退去せしめ  
た事あり、日本人の廣西入を極度に壓迫

諸 外 國

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

北 支 情 勢

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

北 支 情 勢

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる

▲アジア艦隊浦鹽訪問  
上海(六八) 米國アジア艦隊司令長官ヤ  
ーネル提督は旗艦オウガスタ號を率ゐて  
七日朝上海發恒例の夏季演習の爲め青島  
及び秦皇島に向つたが同艦は更に北支よ  
り浦鹽に向ひ對艦觀望訪問を行ふに決し  
たと謂はれる